

令和5年度 退院調整に関する実態調査結果報告（概要版）

1 調査の目的

本調査は、市内居宅介護支援事業所に所属するケアマネジャーを対象に、退院調整の状況および「入院・退院サポートマップ」「医療・ケアについてのもしも手帳」等のツールの認知度や活用状況について把握することを目的としています。

2 調査の概要

- (1) 調査対象者
 - ・市内居宅介護支援事業所 863 か所に勤務するケアマネジャー約 3,200 人
- (2) 調査の方法
 - ・郵送にて調査票を送付。無記名方式で回答、事業所単位で郵送にて回収。
- (3) 調査対象期間
 - ・令和5年9月の1か月間
- (4) 回収結果
 - ・回答事業所数 562 か所／863 か所（回収率 65.1%）
 - ・調査票回収数（回答ケアマネジャー数）1,982 件 有効回答数 1,982 件

3 調査結果

- (1) ケアマネジャーの状況
 - ・基礎資格は 92.9%が福祉系資格（介護福祉士 75.2%、社会福祉士 11.4%、その他福祉職 6.3%）です。
 - ・経験年数は 5～9年が最多で 29.4%を占めました。10年以上が増加傾向で、51.5%と半数を超えています。また1年以下は増加していますが、3・4年目は減少しています。
- (2) 利用者の状況
 - ・ケアマネジャー1人あたりの利用者数は 35.2人で、昨年度と大きな変化はありませんでしたが、平均すると1年あたり1人増加しています。
 - ・ケアマネジャー1人あたりの利用者の介護度は、「要介護2」（9.8人）が最も多くなっています。次いで、「要支援1・2」（8.4人）が多く、年々「要支援1・2」の割合が増えています。
- (3) 退院調整対象者の状況
 - ・退院調整対象者は1,330人で、昨年度より増加しており、特に80代・90代が増えています。
 - ・入院の原因となった主な疾患は、「整形外科系疾患」（24.1%）が最も多く、次いで「がん（末期）」（11.3%）、「感染症（新型コロナ含む）」（10.3%）でした。
- (4) 退院調整の状況
 - ・退院調整を行ったケアマネジャーは44.9%でした。ケアマネジャー1人あたりの退院調整を行った件数は、1件（68.5%）が最も多く、次いで2件（20.5%）、3件（6.6%）となっています。
 - ・病院から退院支援の連絡があった割合は、77.7%であり、減少傾向にあります。疾患別にみると、「その他難病」（83.3%）、「脳血管障害」（83.2%）、「整形外科疾患」（82.2%）、「神経難病」（82.1%）は連絡ありが多く、一方で「認知症」は連絡ありが57.1%と低くなっています。
- (5) 在宅療養支援に関する各ツールの認知度
 - ・各種ツールの認知度はいずれも増加しています。
 - ・経験年数が5年未満の認知度がいずれも5年以上より低くなっています。

4 その他

「入院・退院サポートマップ」をはじめとした退院調整をスムーズにするための情報共有ツールは、本市のホームページからダウンロードできます。ぜひご活用ください。

URL:<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/iryo/zaitaku/taiinchouseitool.html>

<担当>

医療局地域医療課 横山、橋村、宗安

電話番号 045-671-2444

E-mail ir-zaitakuiryo@city.yokohama.jp